

## 個性派企業の追求～社会貢献企業実現のために

---

# 昭和電工株式会社 2010年第3四半期決算説明資料

2010年10月29日

取締役 専務執行役員 CFO

野村 一郎



本資料は発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後、市況や為替レートの変動などを含む様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 連結対象会社(6月末対比)

- 連結子会社 40社:△1社 昭和高分子(株)(合併、石油化学)
- 持分法適用会社 17社:増減なし

## 主要諸元

(期中平均)

	2009年7-9月	2010年7-9月	増減
■ 為替レート※ (円/US\$)	93.7	85.9	7.8 円高
■ 国産ナフサ (円/KL)	41,200	42,600	1,400
■ アルミ LME (US\$/T)	1,842.6	2,107.5	264.9

※10年6月30日期末レート88.5円 10年9月30日期末レート83.8円

⇒ 4.7円円高

## 連結業績の概要(7-9月対比)

(億円)

	2009年7-9月	2010年7-9月	増減
売上高	1,853	2,003	150
営業利益	67	98	31
営業外損益	△41	△23	18
内、金融収支	△16	△13	3
内、持分法損益	△1	3	4
内、為替差損益	△9	△9	0
経常利益	26	75	49
特別利益	1	1	1
内、投資有価証券売却益	0	1	0
特別損失	△38	△38	△0
内、固定資産除却損及び売却損	△7	△11	△4
内、減損損失	△21	△2	19
税金等調整前四半期純利益	△11	39	50
法人税等	10	△15	△25
少数株主損益	△3	△6	△4
四半期純利益	△4	17	21

## 連結売上高差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2009年 7-9月	2010年 7-9月	増減	項目
石油化学	672	715	44	オレフィン:増収(分解ガソリン等の数量増) 有機:減収(酢エチ等の数量減)
化学品	218	215	△3	AN:増収(数量増、価格上昇) アンモニア:増収(繊維、電力向けを中心に数量増) 工業ガス:減収(酸素・窒素は前年並み、代替フロン撤退)
電子・情報	386	403	17	HD:前年並み 化合物半導体:増収(汎用LED、超高輝度LEDともに数量増) 特殊ガス:増収(数量増) レアアース:増収(数量増、価格上昇)
無機	135	197	62	セラミックス:増収(数量増) 電極:増収(米国中心に数量増)
アルミニウム 他	443	472	30	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:減収(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増、 建材向け汎用品事業から撤退) ショウテック:増収(数量増) 熱交換器:増収(国内・米国・中国・タイ)、減収(欧州) アルミ缶:増収(飲料用缶中心に数量増)
合計	1,853	2,003	150	

## 連結営業利益差異内訳(7-9月対比)

(億円)

	2009年 7-9月	2010年 7-9月	増減	項目
石油化学	37	11	△27	オレフィン:減益(原料在庫受払差) 有機:減益(原料価格上昇)
化学品	7	4	△3	AN:増益(価格上昇、数量増) アンモニア、苛性ソーダ、アミノ酸:減益(原料価格上昇)
電子・情報	14	33	20	HD:増益(価格上昇、数量増) 化合物半導体:増益(数量増) レアアース:増益(数量増、価格上昇)
無機	5	31	27	セラミックス:増益(数量増) 電極:増益(数量増)
アルミニウム 他	8	27	19	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増益(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増、 建材向け汎用品事業から撤退) ショウテック:増益(数量増) 熱交換器:増益(全拠点) アルミ缶:減益(原料価格上昇)、卸電力:減益
共通・本部	△4	△9	△5	
合計	67	98	31	

## 連結業績の概要(10年2Q,3Q対比)

(億円)

	2010年4-6月	2010年7-9月	増減
売上高	1,964	2,003	38
営業利益	107	98	△9
営業外損益	△18	△23	△5
内、金融収支	△8	△13	△5
内、持分法損益	6	3	△3
内、為替差損益	△8	△9	△1
経常利益	89	75	△14
特別利益	26	1	△25
特別損失	△48	△38	10
税金等調整前四半期純利益	68	39	△30
法人税等	△21	△15	5
少数株主損益	△6	△6	△1
四半期純利益	42	17	△25

## 連結売上高差異内訳(10年2Q,3Q対比)

(億円)

	2010年 4-6月	2010年 7-9月	増減	項目
石油化学	623	715	93	オレフィン:増収(定修差による数量増) 有機:前四半期並み
化学品	228	215	△13	AN:減収(定修による数量減、価格下落) アンモニア、クロロプレンゴム:減収(同上数量減)
電子・情報	442	403	△40	HD:減収(円高) レアアース:増収(価格上昇)
無機	198	197	△1	セラミックス、電極とも前四半期並み
アルミニウム 他	473	472	△1	圧延品、押出・機能材、ショウテック:前四半期並み 熱交換器:減収(米国・欧州) 前四半期並み(国内・中国・タイ) アルミ缶:増収(数量増)
合計	1,964	2,003	38	

## 連結営業利益差異内訳(10年2Q、3Q対比)

(億円)

	2010年 4-6月	2010年 7-9月	増減	項目
石油化学	6	11	5	オレフィン:増益(定修差による数量増) 有機:減益(コストアップ)
化学品	11	4	△7	AN:減益(定修による数量減、価格下落) クロロプレンゴム、アンモニア:減益(同上数量減)
電子・情報	42	33	△9	HD:減益(円高) 化合物半導体:増益(超高輝度LED採算改善) レアアース:増益(価格上昇)
無機	26	31	6	セラミックス、電極とも増益(数量増)
アルミニウム 他	27	27	△0	総じて前四半期並み
共通・本部	△5	△9	△4	
合計	107	98	△9	



## 連結業績の概要(1-9月累計対比)

(億円)

	2009年1-9月	2010年1-9月	増減
売上高	4,720	5,844	1,124
営業利益	△162	275	437
営業外損益	△156	△60	96
金融収支	△43	△34	8
持分法投資損益	△12	10	23
為替差損益	△4	△14	△9
その他	△96	△22	74
経常利益	△318	216	533
特別利益	20	30	10
内、固定資産売却益	0	2	1
内、投資有価証券売却益	16	1	△15
特別損失	△202	△99	103
内、固定資産除却損及び売却損	△21	△27	△6
内、減損損失	△105	△13	91
税金等調整前四半期純利益	△500	147	646
法人税等	32	△34	△66
少数株主損益	△2	△19	△16
四半期純利益	△470	94	564

## 連結売上高差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

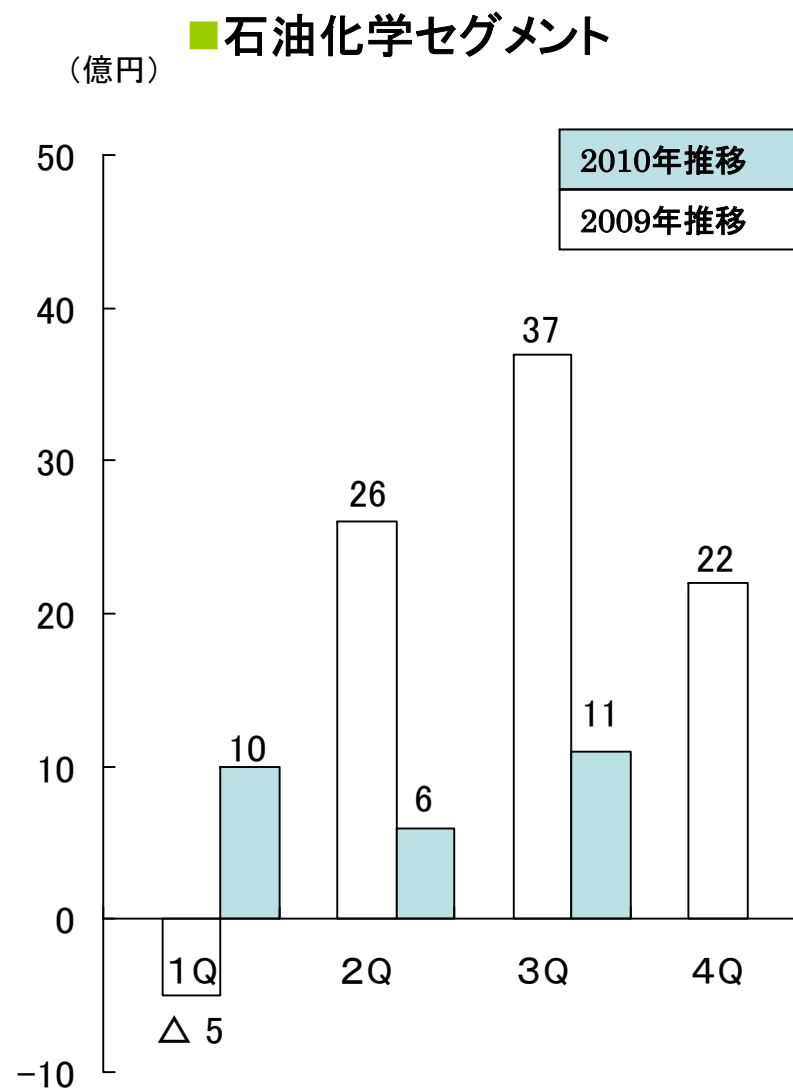
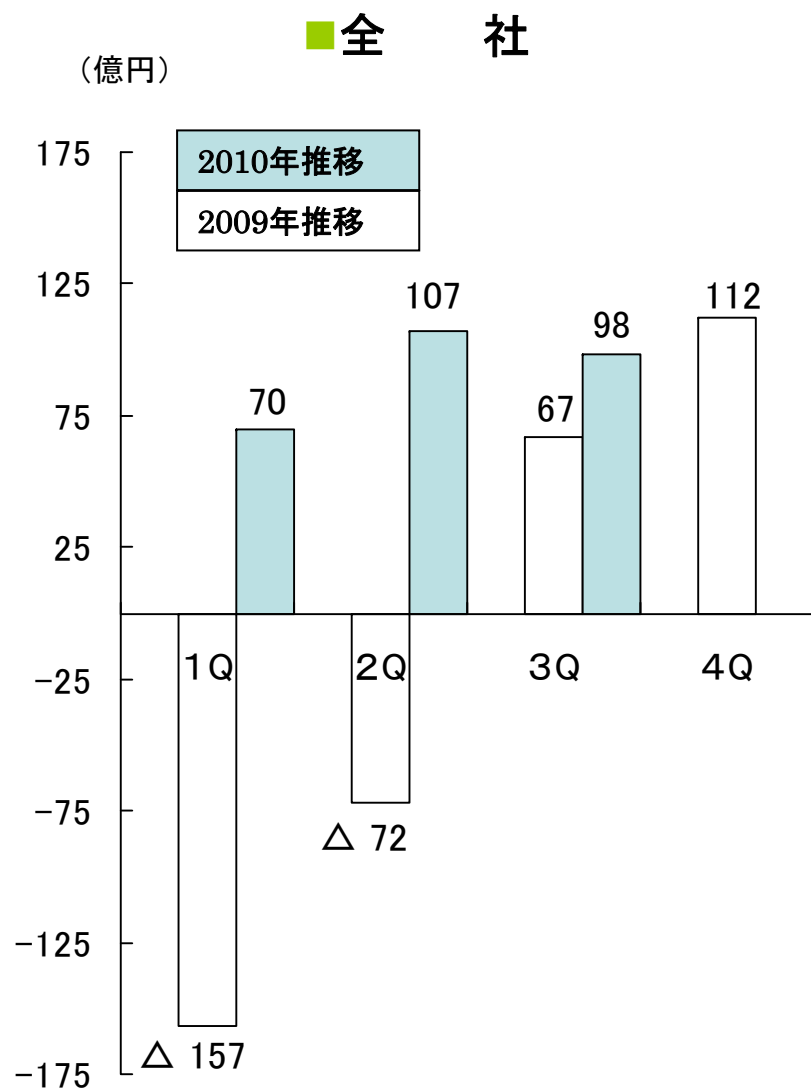
	2009年 1-9月	2010年 1-9月	増減	項目
石油化学	1,634	1,980	346	オレフィン・有機:増収(価格上昇)
化学品	686	661	△25	AN:増収(数量増、価格上昇) クロロプレンゴム、アンモニア:増収(数量増) 昭和炭酸:減収(前年6月決算期変更)
電子・情報	816	1,271	455	HD:増収(数量増) 化合物半導体、特殊ガス:増収(数量増) レアアース:増収(数量増、価格上昇)
無機	363	568	205	セラミックス、電極:増収(数量増)
アルミニウム 他	1,220	1,363	143	圧延品:増収(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増収(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増) 熱交換器:増収(欧州を除く全拠点) ショウティック:増収(数量増) アルミ缶:増収(数量増)
合計	4,720	5,844	1,124	

## 連結営業利益差異内訳(1-9月累計対比)

(億円)

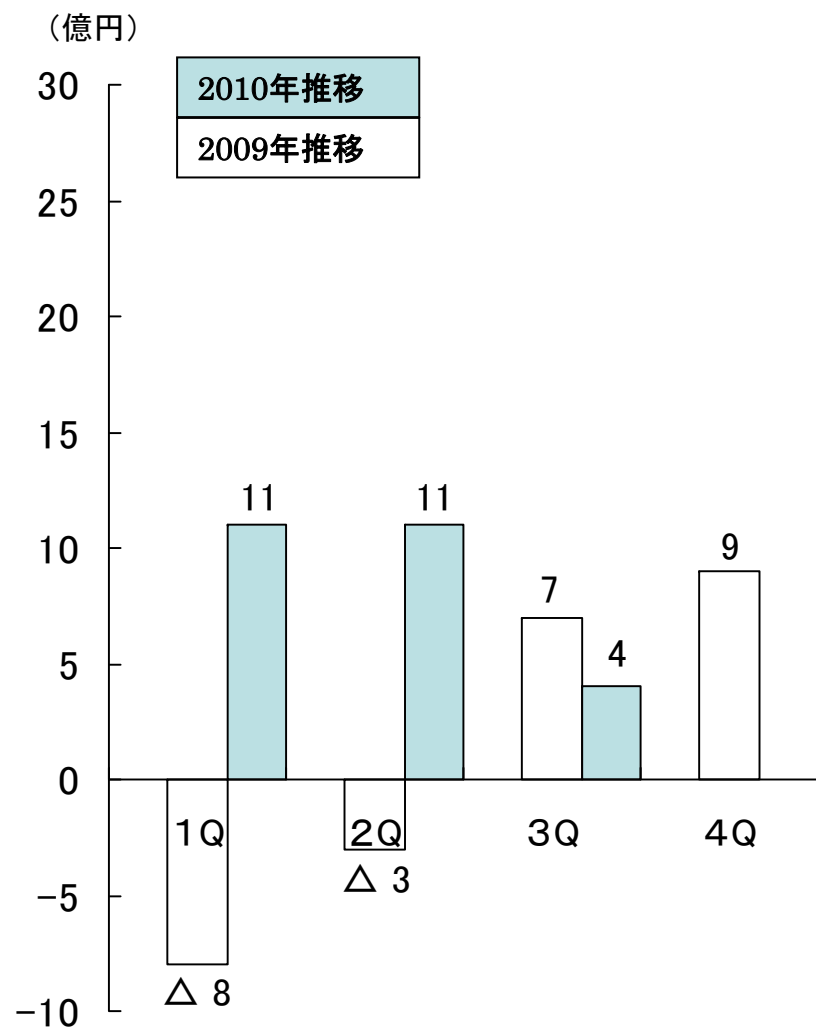
	2009年 1-9月	2010年 1-9月	増減	項目
石油化学	58	27	△31	オレフィン:減益(定修による数量減) 有機:増益(酢エチ等の価格上昇)
化学品	△5	26	31	AN:増益(数量増、価格上昇) アンモニア、クロロプレングム:増益(数量増)
電子・情報	△143	101	244	HD:増益(数量増) 化合物半導体、特殊ガス:増益(数量増) レアアース:増益(数量増、価格上昇)
無機	8	68	60	セラミックス、電極:増益(数量増)
アルミニウム 他	△59	73	132	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔の数量増) 押出・機能材:増益(LBP用アルミニウムシリンダーの数量増、 建材向け汎用押出事業から撤退) 熱交換器:増益(全拠点) ショウティック:増益(数量増) アルミ缶:増益(数量増、コストダウン等)
共通・本部	△20	△19	1	
合計	△162	275	437	

# (ご参考) 四半期別連結営業利益推移

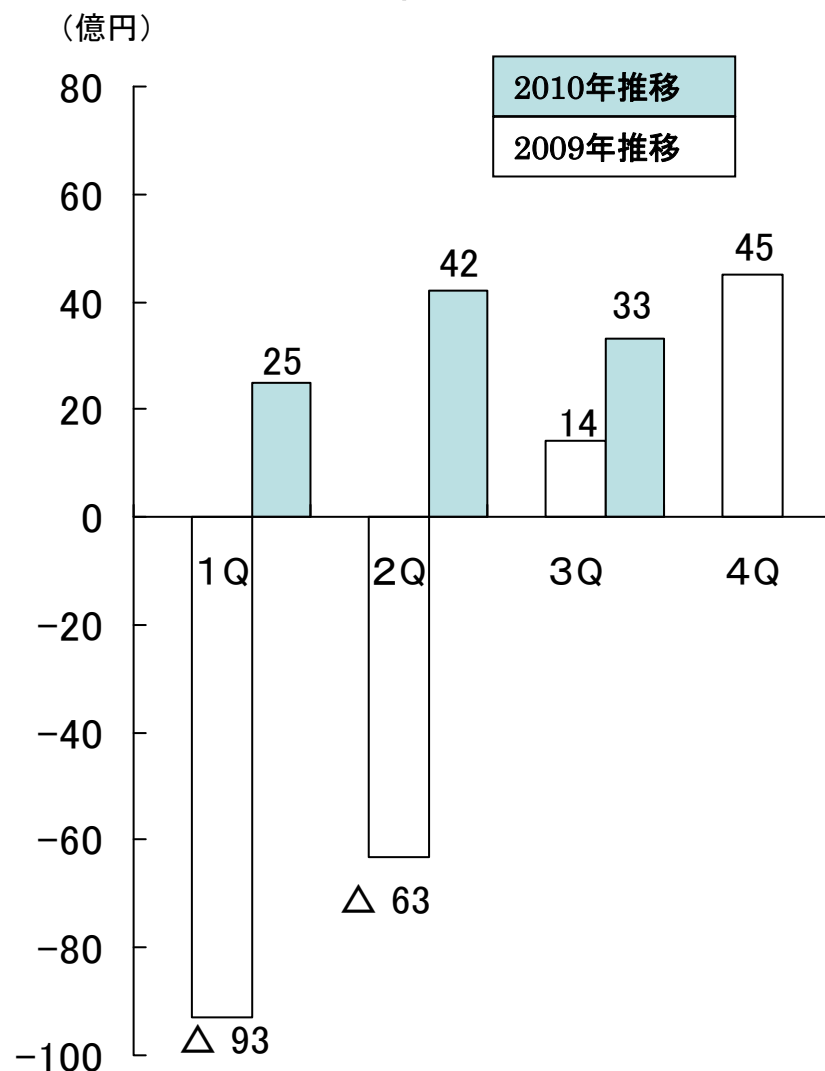


# (ご参考)セグメント別連結営業利益推移

## ■化学品セグメント

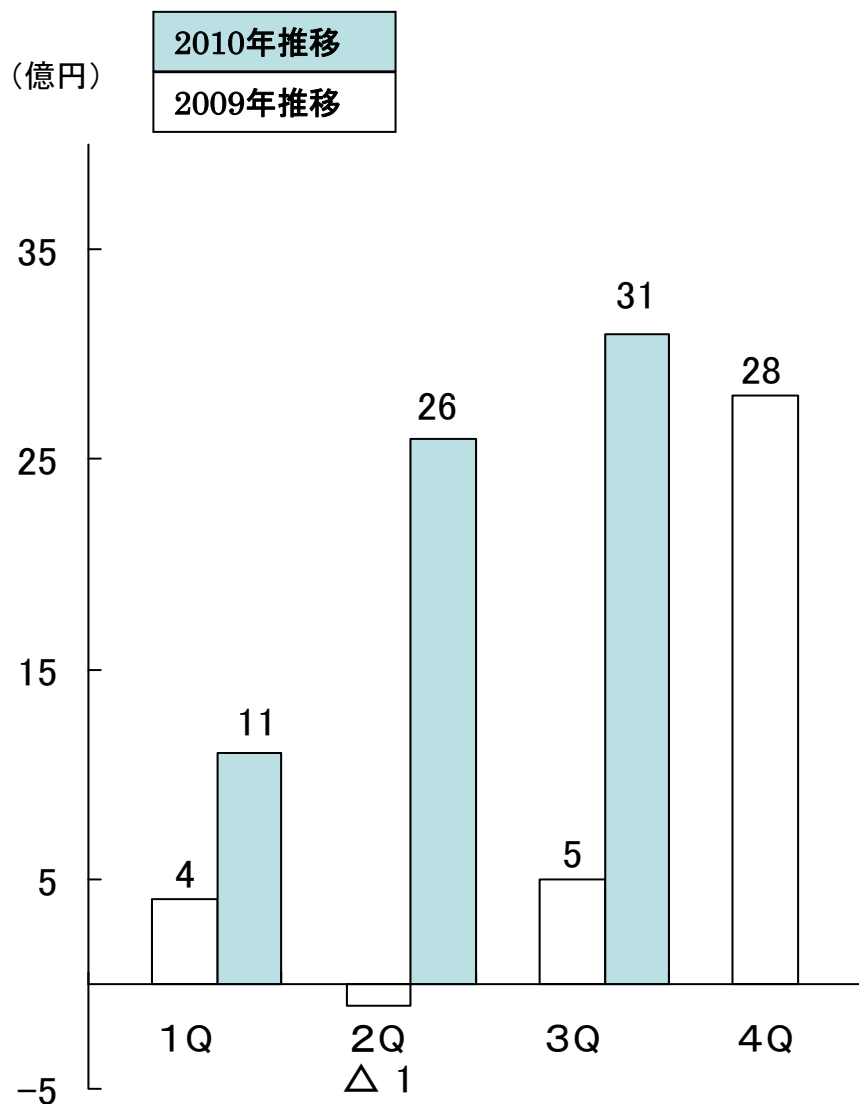


## ■電子・情報セグメント

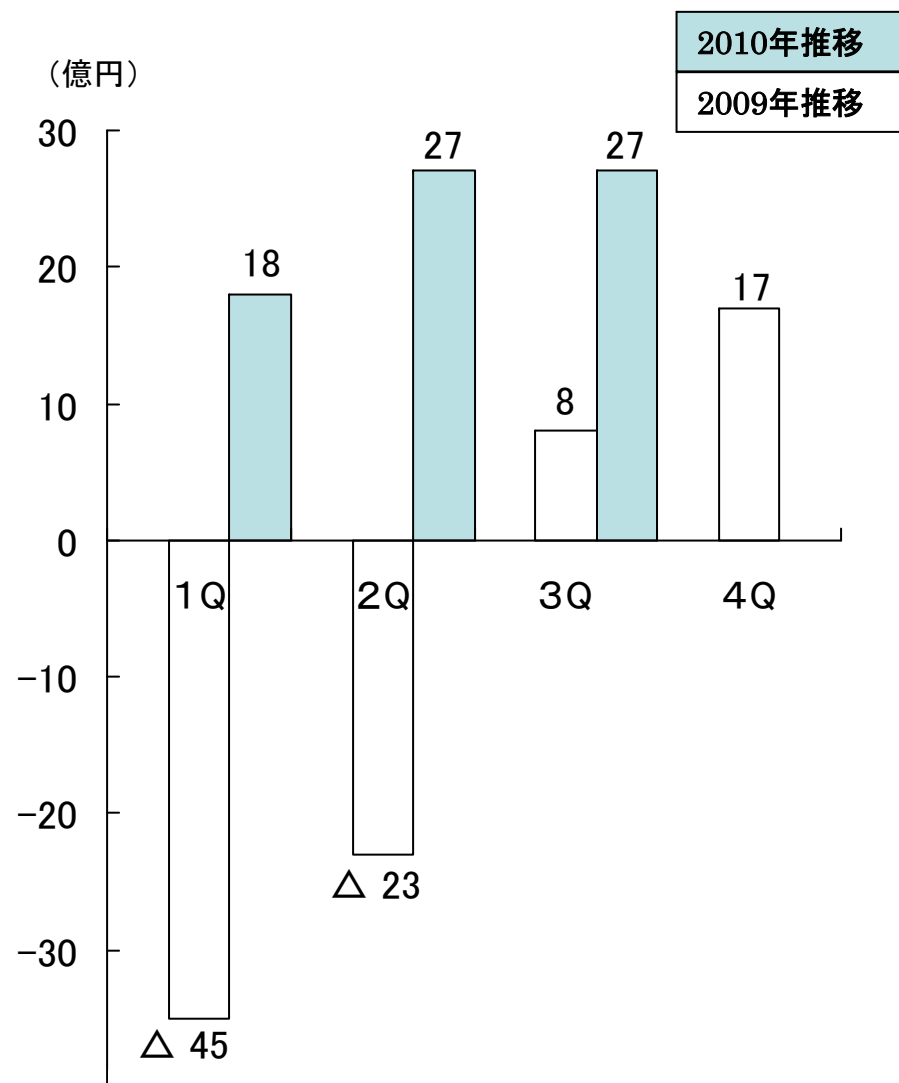


# (ご参考)セグメント別連結営業利益推移

■無機セグメント



■アルミニウム他セグメント



# 連結貸借対照表

(億円)

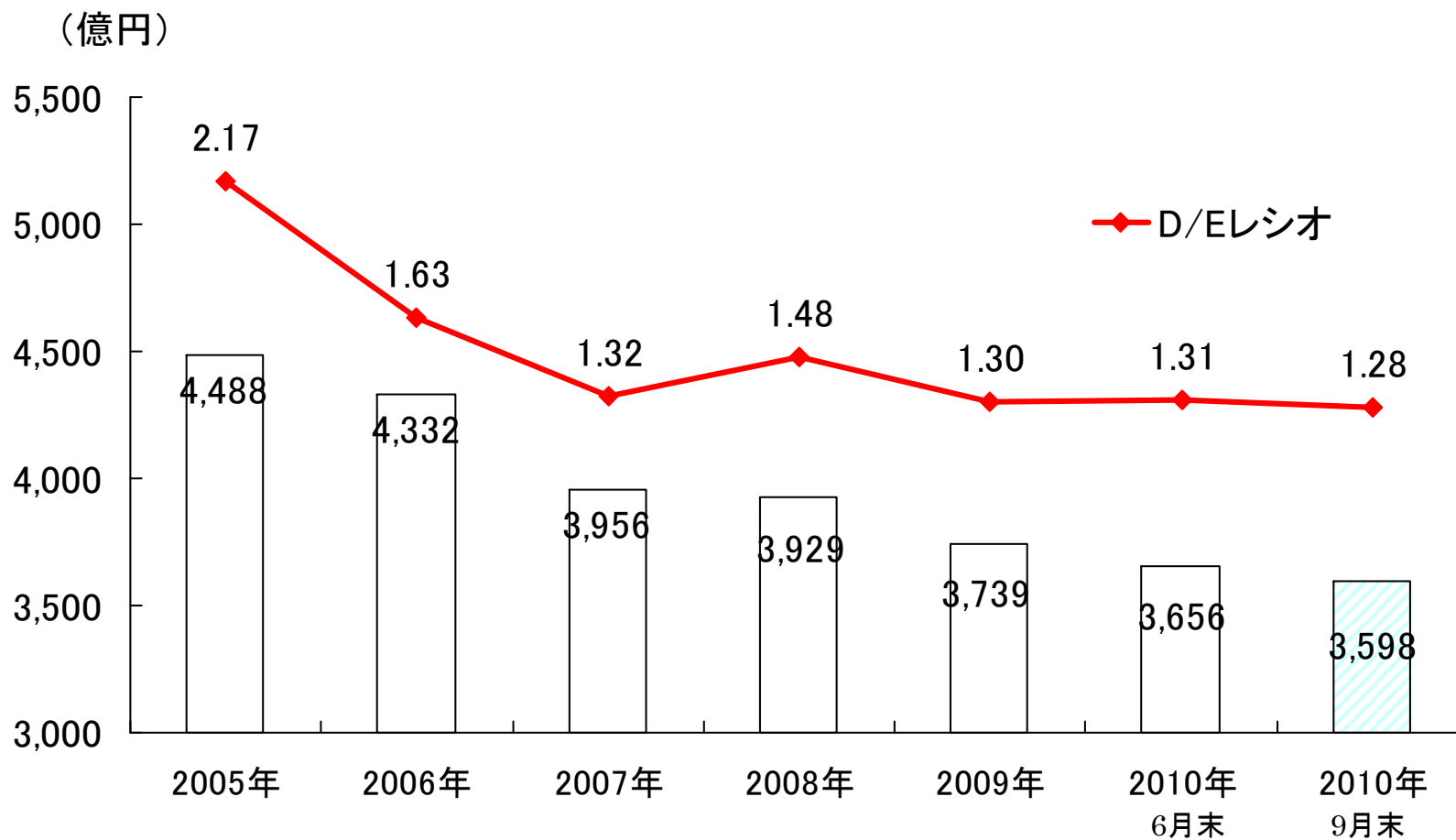
資産	2010年 6月末	2010年 9月末	増減	負債・純資産	2010年 6月末	2010年 9月末	増減
現預金	401	363	△38	営業債務	1,136	1,125	△11
営業債権	1,445	1,341	△104	有利子負債	3,656	3,598	△58
たな卸資産	1,002	1,053	52	退職給付引当金	267	264	△3
その他	311	326	16	その他	1,546	1,385	△161
<b>流動資産計</b>	<b>3,159</b>	<b>3,084</b>	<b>△75</b>	<b>負債計</b>	<b>6,605</b>	<b>6,372</b>	<b>△233</b>
建物・構築物	901	886	△15	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,444	1,422	△22	資本剰余金	622	622	△0
土地	2,553	2,553	0	利益剰余金	323	340	17
他有形固定資産	184	147	△37	自己株式	△2	△2	△0
<b>有形固定資産計</b>	<b>5,081</b>	<b>5,008</b>	<b>△73</b>	<b>株主資本計</b>	<b>2,349</b>	<b>2,366</b>	<b>17</b>
無形固定資産	127	123	△4	その他有価証券評価差額金	△44	△45	△0
投資その他の資産	1,028	969	△60	繰延ヘッジ損益・為替換算調整勘定	△161	△163	△1
(内、投資有価証券)	572	574	2	土地再評価差額金	220	220	—
				評価・換算差額等計	14	12	△1
				少数株主持分	427	432	5
<b>固定資産計</b>	<b>6,236</b>	<b>6,099</b>	<b>△137</b>	<b>純資産計</b>	<b>2,790</b>	<b>2,811</b>	<b>21</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,395</b>	<b>9,184</b>	<b>△212</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,395</b>	<b>9,184</b>	<b>△212</b>

## 総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

	2010年6月末	2010年9月末	増減
■ 総資産	9,395億円	9,184億円	△212億円
■ 有利子負債	3,656億円	3,598億円	△58億円
■ D/Eレシオ	1.31倍	1.28倍	△0.03p
■ 自己資本比率	25.2 %	25.9%	0.7p



# 連結有利子負債の推移



自己資本比率	21.0%	22.7%	26.9%	25.0%	25.5%	25.2%	25.9%
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

## セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

### ■石油化学セグメント

- ディスプレイ向け耐熱・透明フィルムのパイロット設備建設を決定
  - ◆ディスプレイ向け耐熱・透明フィルムのパイロット設備を大分コンビナート内に建設し、2011年6月に稼動開始の予定。本フィルムは、タッチパネルや液晶等のディスプレイ向けに高い透明性・耐熱性・表面硬度等の特長を有する。

### ■電子・情報セグメント

- シンガポール拠点におけるハードディスク生産能力を増強
  - ◆本年4月28日にハードディスクの生産能力を月産300万枚増強し、月産2,500万枚とする投資を発表したが、ハードディスクを内蔵するHDDは、PC、サーバー、デジタル家電などへの用途拡大により中期的に需要拡大が見込まれることから、子会社昭和電工HDシンガポールにおいて新たに製造ラインを追加し、月産200万枚の生産能力を追加増強することを決定した。投資額は、約55億円を見込む。これにより、全生産拠点合計のハードディスク生産能力を現行<sup>(注)</sup>の月産2,200万枚から2011年3月末までに同2,500万枚、2011年6月末までに同2,700万枚へ段階的に引き上げる。今後もHDDの需要拡大に応じて引き続き生産能力の増強を検討する。

(注)2010年6月末現在

# セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

## ■電子・情報セグメント

- 青色LED素子 月産生産能力3億4千万個への引き上げを完了
  - ◆ 液晶テレビのバックライトや一般照明向けに用途が拡大している青色LED素子について、千葉事業所において進めてきた生産能力の増強工事を本年7月に完了し、月産2億個から3億4千万個へ引き上げ、本格的な量産運転に移行した。今後もLED素子の高出力化や生産効率のさらなる向上に向けた技術開発を進め、お客様ニーズにかなう高品質・高性能で省エネルギーに貢献する製品を提供する。
  
- 超微粒子酸化チタン「スーパータイタニア<sup>®</sup>」生産設備を増設
  - ◆ 積層セラミックコンデンサーの原料である超微粒子酸化チタン「スーパータイタニア<sup>®</sup>」の生産能力の増強を行う。具体的には子会社昭和タイタニウム(株)において、生産能力を月産180トンから240トンへ引き上げる。積層セラミックコンデンサーはPCや携帯電話など小型化・軽量化が要求される情報機器や薄型テレビなどのデジタル家電に多く使用され、今後も需要拡大が見込まれる。

# セグメント別トピックス

(第2四半期決算後に決定・実施した主な施策)

## ■無機セグメント

### ●インドネシアでのアルミナ工場建設を決定

- ◆ エレクトロニクス製品の部材などに用いられるケミカル用アルミナ事業について、新たにインドネシア・アンタム社と共同で合弁会社インドネシア・ケミカル・アルミナ社(当社20%出資)を設立し、インドネシア・西カリマンタン州における新工場の建設に合意した。投資額は約4億5千万米ドルを見込み、両社による出資と新会社による借り入れにて実施する。新工場は2011年1月より建設を始め2014年1月より操業開始を予定。生産能力は年間30万トンの予定で、このうち20万トンは今現在横浜事業所における生産分の代替品とする。

## ■全社施策

### ●日本政策投資銀行より最高ランクの環境格付けを取得

- ◆ 本年7月30日に(株)日本政策投資銀行の環境経営度の審査において、最高ランクの格付けを取得し、「DBJ環境格付」融資を受けた。主に超高輝度LEDやカーボンナノチューブ「VGCF<sup>®</sup>」といった開発品が社会の持続的発展へ貢献が期待できること、大分コンビナートナフサ分解炉更新による温室効果ガス排出量の大幅な削減実行等、製品の製造過程における地球温暖化対策の実行と今後の意欲的な削減計画、等の取り組みについて評価を受けた。今後も持続可能な社会の構築を経営の重点課題として捉え、地球環境への負荷低減に貢献する製品・技術の開発や地球温暖化ガス排出量の削減などの取り組みを通じて社会への貢献を図る。